

平成25年度 第6回江東区外部評価委員会

1 日 時 平成25年8月16日(金)
午後7時00分 開会 午後8時00分 閉会

2 場 所 防災センター 2階 第21会議室

3 出席者

(1) 委員()は欠席

安 念 潤 司

木 村 乃

藤 枝 聡

大 塚 敬

桑 田 仁

牧 瀬 稔

山 本 かの子

梅 村 小百合

坂 井 優 子

(田 中 真 司)

吉 田 正 子

浦 田 清 美

澁 谷 勝 彦

(2) 事務局出席者

政 策 経 営 部 長

寺 内 博 英

企 画 課 長

長 島 英 明

財 政 課 長

武 田 正 孝

4 傍聴者数 1名

5 会議次第

1. 開会

2. 議題 (1) 平成25年度 外部評価結果報告書(案)について

3. その他

4. 閉会

【配布資料】

- ・資料1 平成25年度 外部評価結果報告書（案）

午後7時00分 開会

○委員長 それでは、第6回江東区外部評価委員会を開催いたします。委員の皆様には、ご多忙のところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日は、田中委員から欠席の連絡をいただいております。傍聴の方もお1人おいでいただきました。どうもありがとうございます。

始めに、お手元の資料の確認をお願いいたします。席上に配付されている会議次第配付資料の一覧がございます。よろしいでしょうか。

本日の議題は、基本的には1つでございます。平成25年度外部評価結果報告書（案）についてでございます。それではこれを議題といたします。この外部評価結果報告書（案）は、各委員より提出いただきました外部評価シートに基づきまして、委員長の私と、各班の班長から構成される小委員会において、調整の上、とりまとめたものでございます。本件につきまして事務局よりご説明頂きます。

○事務局 それでは私の方から、平成25年度外部評価結果報告書（案）につきまして、ご説明をさせていただきます。

資料1をご参照いただきたいと思います。1ページをお開きいただきますと、平成25年度外部評価について、前文が記載してございます。安念委員長の名前で記載したものでございます。この内、特徴的な部分といたしまして、ちょうど文章の真ん中あたりの段落になるわけですが、前期計画における外部評価は、今回で一応の区切りとなります。これにつきましては、本日の最後に、また政策経営部長の方から説明させていただきます。4年前の開始当初は、区側出席者も一種の警戒感を持って臨まれたようで、官僚的答弁に終始する場面もありました。しかし、回を重ねるにつれて距離感も縮まって、施策の方向性や課題について活発な議論も行われるようになり、外部評価の趣旨が徐々に浸透してきたことを感じております。このような事が特徴的な部分で、前振りで書かれているところでございます。

続きまして、1ページお開きいただきますと、目次になってございます。それを飛ばしまして、2ページをお開きいただきたいと思います。こちらから1番上、設置の目的から2番、評価結果の取扱い、3番、構成、3ページにいきまして評価対象、次のページに移りまして、評価方法、実施方法等々書かれてございます。5ページまでは従前、皆様方にご説明した内容を改めて記載したというところでございますので、説明の方は省略させていただきます。

続きまして7ページの総評の、1ページをお開きいただきますと、8ページ9ページが、平成25年度江東区外部評価委員会の総評でございます。8ページの一番上、行政評価の目的と役割から、ルールが書いてございますけれども、基本的にはこの部分につきましては、昨年と同様で、若干今年度に合わせたかたちで字句等を訂正した部分でございます。今年取り入れた部分につきましては、9ページの一番最後でございますけれども、4年間の外部評価を終えてというところで加えさせていただきました。少し読ませていただきますと、平成22年度からの4年間で全ての施策に対して2回の外部評価を実施したところである。施策によって進捗状況に差異はあるものの、成果指標から見ると現時点では概ね長期計画に沿った施策が実施されているものと判断できる。

しかしながら、リーマンショック後の長引く税収難、東日本大震災の発生、生活保護受給世帯の急増など、この4年間の間に区政を取り巻く環境は激変している。さらに、人口が急増している本区でも、いずれ人口減少社会に転ずることは必至であり、遠からず現在の計画策定手法を大きく変更せざるを得ない時代が到来すると考えられる。

厳しい社会経済状況を背景に、限られた財源の中で多様化する区民ニーズを実現していくためには、現在の施策全般を徹底的に見直し、もう一段厳しい姿勢で効率的な行財政運営を目指していただきたい。併せて、その取り組みの進捗状況を客観的に評価、公表するシステムづくりも必要であろう。このようなかたちで、4年間の外部評価の総括的な部分を加えさせていただいたところでございます。

続きまして、1ページお開きいただきますと、ここからが施策評価という事でございます。こちらに書いてございますけれども、アンダーライン、下線を引いた部分は2年前の記載と比較して、修正・追加等が行われた部分という事で記載をさせて頂いております。

また、昨年のこの会議におきまして、2点のご指摘がございました。まず1点は、施策評価シートについて慣れがあるのではないかと。東日本大震災関連以外についての追記が少なかったというご指摘がございました。これにつきましては、今ご説明しましたように、下線を入れる事によって、その追記の変更点を表示したという事で、追記をどちらかという事と促したという事でございます。もう1点、外部評価結果委員会における評価結果に対する質疑が多かったことでしたので、事前に議事者等に周知をいたしまして、今年の流れを見てみますと、概ね良好に、その辺は対応できたのかなと考えてございます。

それでは、次の12ページからは各施策の内容になるわけでございますけれども、時間の関係もありますので、班ごとに一つずつ若干概略をご説明をさせていただきたいと存じ

ます。施策番号の若い順から、1班、2班、3班という順でご紹介させていただきたいと存じます。

まず施策2、身近な緑の育成は1班の担当した施策でございます。1番の施策が目指す江東区の姿といたしましては、区民の緑に対する愛着と、緑を守り育てる心が育まれ、緑の中の都市「CITY IN THE GREEN」が実現されています。この、江東区の姿を目指しまして、施策を実現するための取り組みといたしまして、公共施設の緑化、歩行者が快適さを感じる道路緑化、区民、事業者、区による緑化推進、この3点を取り組みとしてあげているところでございます。

続きまして、13ページにお移りいただきまして、4の施策実現に関する指標。これは緑被率、区立施設における新たな緑化面積等、4つの指標を挙げてございます。それに基づきまして、16ページに飛んでいただきます。外部評価委員会による評価というものでございますけれども、先程委員長からございましたが、こちらの評価につきましては、評価委員の先生方4名で構成する小委員会により、班の意見をまとめたものでございますので、委員全ての意見が反映されているものではございません。また、同様の意見というのは、集約した形で記載してございますので、ご了解をいただければと存じます。

まず、施策の目標に対して成果は上がっているかという事に対しましては、一点目の黒ポチでございます。平成23年度評価の際に実態把握ができていなかった緑被率を、新たな資料である緑視率と併せ独自に把握し実態を明確にしている点は評価できる。また次でございますけれども、公共施設や街路樹の緑化は着実に進展しており、指標値が順調に向上している。最後になりますが、全般に高い成果があげられているという評価でございます。

また、区民ニーズ等でございますけれども、みどりのニーズは区民、社会的な要請とも高く、実施内容も適切でニーズに対応した取組と評価できるが、一部指標で目標水準を既に超過している状況を踏まえると、どの程度の水準までを区民が求めているか検討が必要と思われる。

次の区民との協働等につきましては、平成23年度の評価の指摘に対し、区民主体の緑の創出について取組の拡充がなされており、評価できる。次のポツでございますが、「江東区CIGビジョン」の成功のためにも、区内の都立公園等の緑の管理など、都との円滑な連携を望む。

最後の総合評価でございます。施策の内容は概ね適切であり、成果も順調にあがってい

ると評価できる。2番目のポツ、一行目の最後の部分からでございますけれども、今後の新たな目標水準のあり方について、区民ニーズも踏まえた検討が必要と考えられる。最後のポツの1番最後でございますが、緑の緑化施策についても壁面や屋上の利用が今後の課題であるとしております。また、この施策につきましては、その他という事で、小学校の校庭芝生化については、保護者と学校との協力、コミュニティ醸成を促し、顔の見えるコミュニケーション効果が期待できる。また、地震発生時、小学校などは避難場所にもなり、より絆を強める布石の一つにもなると考えられる、というご指摘もございました。

続きまして2班につきましては、22ページをお開きいただきたいと存じます。こちら、子育て家庭への支援という事でございます。施策が目指す江東区の姿といたしましては、子育て家庭がさまざまな場面でサポートを受けることができ、楽しく子育てをしています。施策を実現するための取り組みといたしまして、子育て支援機能の充実、多様なメディアによる子育て情報の発信、子育て家庭への経済的支援、この3点を挙げてございます。続きまして23ページの、施策実現に関する指標でございますが、子育てがしやすいと思う保護者の割合、子育てひろば利用者数等、4つの指標を掲げてございます。

それでは評価でございますが26ページをお開きいただきたいと存じます。施策の目標に対して成果が上がっているか、という事につきましては、施策の評価指標値(特に27「子育てがしやすいと思う保護者の割合」)が改善する兆しが見られない。したがって、外部評価として「成果があがっている」と評価することはできない。次のポツですが、本施策については、本施策の成果が指標値に必ずしも反映されないという、指標設定の問題が明らかである。区にはそのことも含め、設定した指標に常に向き合い、指標値の動きで施策成果を説明するという基本姿勢を強く求めたい。3番目のポツでございますが、中段からになりますけれども、目標値と現状値の数値とのかい離が大きいなか、今後、区外から新たに南部地域に転入してくる世帯が「子育てしやすい」あるいは「子育て情報が入手しやすい」と思うかが、成果向上に大きく影響すると考えられるという事で、この施策に対しては、なかなか成果があがっていないのではないかという評価でもあると思います。

続きまして、区民ニーズの関係でございますが、1行目でございます。概ね、子育て家庭に対する支援ニーズ、社会状況に即した事業展開になっていると理解できるとしてございます。続きまして、区民との協働についてでございますが、「こうとう親子くらぶ」など、区民の自発的な取り組みを支えようとする「協働」の発想が、具体的な事業・取組として出現してきていることは望ましい。2点目、区民との連携の際に、区民の活力を引き

出す（エンパワメント）、区民間の意思や取り組みをつなぐ（ネットワーキング）といった視点で、何をどこまで区が狙っているのかを明らかにすることを、今後の課題として認識していただきたい。

最後の総合評価といたしましては、1行目の中段中ほどからですが、施策目標である子育て支援の観点からは、網羅的で量的に十分なものであることが資料・説明からうかがえる。一方、「今後の方向性」については、まず区側で政策の方向性を明らかにすることをお願いしたい。2番目ですが、この施策の政策的位置付け（施策6との関係等）、施策6は保育サービスの充実という施策でございますけれども、「施策が目指す江東区の姿」で掲げられている「サポート」の意味が曖昧であり、区の意図がわかりにくくなってしまっている。評価シートによると区として「不安感の解消」「子育て対応力強化」「子育ての喜び実感度の向上」という課題認識が示されているので、こうしたところから、現行の事業・取組がどのように位置づけられるのか整理していただきたい、という様に指摘してまいります。

最後に3班でございますけれども、32ページをお開きいただきたいと存じます。健全で安全な社会環境づくりでございます。1番の、施策が目指す江東区の姿といたしまして、地域住民・団体と区が一体となって、こどもの成長を支え、見守るシステムをつくることにより、子どもたちがのびのびと成長しています。これを実現するための取り組みといたしまして、こどもが安全で健やかに過ごすことができる場の確保、こどもの安全を確保する地域環境の創出、この指標といたしまして33ページの4でございますが、放課後こどもプランを実施している小学校数、こどもにとって地域環境が安全であると思う区民の割合という2つの指標を取ってございます。それでは評価でございますけれども、36ページにお進みいただきたいと存じます。施策の目標に対して、成果は上がっているかという件につきましては、2行目からでございますが、施策の目標に対して成果があがっているものと評価できる。ただし、「安心」のとらえ方については地区別の特性を詳細に分析して、よりきめ細かい対応が求められる。2番目、江東きつずクラブについては、計画的かつ体系的に事業が進捗しているものとみられる。3点目、こども110番の家事業については抑止力が認められる。

1番最後になりますが、協力が得られにくいマンション地帯における新しい事業方法の検討があまり進んでいないことが課題である。評価がされつつ、また、課題も指摘されているところでございます。

次に、区民ニーズと社会状況の取り組みでございますけれども、江東きつずクラブは、保護者アンケートによっても、高い評価や実施要望を得ており、概ね区民ニーズに合った取り組みを実施していると考えられる。2点目でございますが、地区ごとに、不安を感じさせる状況の違いがあるものとみられ、アンケートを詳細に分析したうえで、よりきめ細かい対応を施す余地があるものとみられる。住民を巻き込んだ新たな発想による新規事業に着手することを期待したい。

区民との協働につきましては、区・警察署・学校が連携し、一番最後になりますが、協力する体制ができていることから役割分担は適切に行われているものとする。「地域住民、団体と区が一体となって」きつずクラブの運営に取り組んでいることが評価できる。

最後の施策の総合評価でございます。施策としては総合的に良い評価ができる。ただし、本区の場合、幼児・児童の増加する新しい住民層の多い地域と既存市街地との違いなど、地区毎に異なる特性を持っているため、安全な社会環境として何を前面に打ち出すのか、地区別の特性を踏まえた安心感づくりが課題である。このようなかたちで1つずつ紹介をさせて頂いたところでございます。

続きまして、108ページからになりますが、資料として、109ページになりますけれども、設置要綱、また、今年度の日程等を明記してございます。若干早足でございましたけれども、私からの説明は以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。それでは、この報告書（案）につきまして、何かご質問あるいはご意見、ご発言がありましたらどうぞ。いかがでございますか。今日が最後ですよ。では、桑田委員。

○委員 取りまとめどうもお疲れさまでした。9ページに4年間の外部評価を終えてとありますが、せっかく4年間やりまして、幾つか色々指摘もあったかと思うので、より良い外部評価に向けてですとか、これまでの色々な指摘を踏まえて、もう少ししっかり整理しておいた方が良いのではないのかと思うのですが。例えば、指標値の設定の問題ですとか、結局どれ位改善されたのかが金額ベースでわかる資料を掲載するですとか、今まで議論になった点があったと思うので、それを是非まとめておいていただきたいと思います。4年で確かに終わりますが、また今後、このような機会があると望ましいかと思っていますので、その時のために、そこら辺の指摘をしっかりしておくべきではないかと思っています。

○事務局 よろしいでしょうか。金額的なものにつきましては、今度の展開2014で最終的にまとまるかたちにはなります。外部評価というのは、二次評価の一つの過程として

考えてございますので、皆様方には3月に金額等につきましてもお示ししようかなと思っております。また、指標値の変更等につきましても、色々ご指摘いただいておりますので、この外部評価の中には記載はしてはおりませんが、今後、後期計画が5年間続きますので、そこにいかに反映していくかというのは、検討していく考えてございます。いずれにしましても、最終的に展開2014をまとめた際、ご説明等はさせて頂こうかなと思っております。

○委員長 それはいいじゃないですか。別にこの外部評価の報告書の中で必ずしも書かなければならない話ではなくて、例えば、その金銭の評価のようなことは、どんな媒体であってもいいから、積極的に進めていくべきである、といったような事をここに書いておくのは有意義な事ではないですか。少し考えさせていただけますでしょうか。

○委員 そうですね。よろしくご検討ください。

○委員長 他にいかがでしょう。どうぞ。

○委員 細かいところですが、5時から6時位まで子供を預かるのに、きつずクラブはおやつがないと聞きますが、子供の成長時におやつって必要なのか、その辺が気になりました。問題になってないのかと。

○委員長 何か指摘されましたか。どなたの班でしたかね。おやつのは出ましたか。

○委員 おやつのは、出ましたね。

○委員長 出ましたか。

○委員 出しましたね。質問もしました。

○委員長 それで何か字のかたちになっていますか。

○委員 記録の方には載っています。

○事務局 記録には載っていますが、施策評価という上ではなかなか。

○委員長 評価の視点にそれが入っていなければ仕方がないですが。

○委員 正確には記憶はしていませんが、ご心配頂くような状況にはないと。保護者の方のご希望に合うようなかたちで出来ているというようなご回答をいただいたはずです。澁谷委員、梅村委員、山本委員、ご記憶であれば。

○委員 前は相当議論した記憶があって、今回は少しだったのですが。恐らくお金がかかるというところで、個人負担でしたよね。詳しい資料はありませんが、希望者には出せる環境はあるという様な記憶はあります。全員一律で良いのかどうか、そういう細かいところまで、深くは話をしていないと思うんですけどね。

○委員 確か、昨年度のこの最終のまとめの時にも同じご指摘をいただいた事、かつ、その班のヒアリングの時に話題として出ていた事を記憶していたので、今回もヒアリングの時にその点を指摘して、先程申し上げたような回答をいただいているという状況です。

○委員長 話には出たと。

○委員 話に出ていますし、要するに、保護者の合うかたちでやっているということで、差支えのある状況ではない、という認識だというお話でしたね。

○事務局 もし、個別にという事であれば、またご説明させて頂こうかと。

○委員 はい。少し気になるかなと思います。

○委員長 よろしゅうございますか。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。よろしいですか。それでは、先程桑田委員からありました点は、少し文章を研究させていただきたくして、基本的に、当委員会としてこの報告書（案）を採択するという事でよろしいでしょうか。なお、先ほどの部分やてにをは等につきましては、修正の可能性はございますが、その点については私にご一任をいただきたいと思います、よろしいでしょうか。

○全員 （賛同）

○委員長 はい、どうもありがとうございました。以上をもちまして、報告書（案）についての審議は終わります。今年度の外部評価作業はこれで終了となりますが、いつも通り委員の皆様から1、2分で一言ずつ頂戴できればと存じます。

○委員 ありがとうございました。4年間フルに関わらせていただきました。区民委員の方々の評価の結果、あるいはヒアリングの姿勢というものと、評価経験者という位置づけで、お聞きして評価するポイントと、違いがあったことに驚きもしましたし、違いがあったから良かったなと思っています。私の感覚では、区民委員の方は、何かの現象に対して、結果的に区民の方が喜んでいいるのだからありでしょうと、というような評価をする傾向が強かったと思います。それは現実の問題としてそういう評価もあって良いと私は思います。ただ、一方で私の評価の仕方というのは、施策のあるべき姿と、目標として実現されている姿というところに、文字として書いてある事が手法も含めて、そういう結果をもたらしているかどうか、というプロセスも含めての評価をしています。従って、例えば、協働によって何かを実現すると言っている場合、何かを実現するところほうまくいっていても、それは結局役所がガンガンやったからできたのであれば、協働によってやれていないので、やはり評価としてはいけないのではないかとこのところ、区民委員の皆さんと

私とで評価の結果が異なり、小委員会で議論をさせて頂きました。ですが、やはりそこは、第一には区民の方がどう評価されるかという事を優先すべきであろうと。ただ、苦言を呈するならば、プロセスに書いてあるものを付け加えるという事でやらせていただいた、そういう調整をする事を通じて、このような構成で評価をしていくという事の、面白さと意味をこの4年間を通じて感じさせていただきました。大変お疲れさまでした。どうもありがとうございました。

○委員長 では、次の方をお願いします。

○委員 ありがとうございます。私が関わらせていただいたのは、だいたい3年間でしたが、区のご担当の方々の説明の技能、技術がものすごく高まったなと感じました。特に、私にとって今年の評価が全部二順目の施策だったので、前回と比べて、これが足りない、これをもっと出してくれないとわからないという事がなく、今年はことごとく言う前から出てきたので、とても評価がやりやすかったです。また、そういう事は恐らく、一般の区民の方に対しても説明するという意味で有益だと思いますので、おこがましい言い方もしれませんが、トレーニングの場として、この会が区にも非常に意味があった場だったのではないかと思います。

小委員会で少し言わせていただきましたが、この4年間は、大げさな言い方をすると、この国にとってその前の4年間と同じではなくて、ものすごく大きな変化がたくさんあった4年間だったと思っています。1つずつ上げていくときりはありませんが、震災やリーマンショック、人口が完全に減少に転ずる事や、国の借金が1千兆円をついに超えた事等をふまえると、国から自治体まで、財政を絞らないといけない時期にきています。木村さんも同じような事をおっしゃっていましたが、本当にどこまでやるのか。もらえる側は、もらえるものはもらえた方が良く決まっています。しかし、もらえるものは元々自分達が払っている税金からきていますので、これをもっともっと整備すべきなのか、本当に第一優先なのかという議論を、区民の皆さんにも知っていただかないといけないし、行政サイドとしては区民に理解していただくように、今まで以上に厳しく努力していかないと首が回らなくなると思います。ですから、こういう場の評価の仕方というのもシフトチェンジというか、もう一段違う基準で見ていくということが、次のステップだと思います。どうもありがとうございました。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 私も4年間お世話になりました。だいたい、お二人と一緒にですので、以上という

事で、どうもありがとうございます。

○委員長 なるほど、ありがとうございます。

○委員 私は昨年度と2年間、公募区民として評価をさせていただきました。今回生活衛生や教育、子育て、福祉の件で評価をさせていただきましたが、その評価の内容、政策の内容自体を見ると、行政があれもこれもと頑張っている姿がすごく見受けられて良かったなと思います。一方、施策の目標の中に、例えば、民生委員やボランティアの力をうまく活用したいといことが入っていても、現状なかなかそうした民間の力が活用しきれていないという課題があると思いました。今後、あれもこれもというと、財政が圧迫しますので、うまく民間の力を活用する仕組みづくりが課題かなと感じました。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 実質今年1年目ですが、本当にありがとうございました。個人的には、区と区民が一体となる行政、私はこれこそが根本だと思っています。また、委員の皆さんの熱気あふれる答弁に、この会に参加して本当に良かったなと心から感謝しています。ありがとうございました。また、今後とも江東区を愛していますので、江東区の様々な観点に注目して積極的に参加したいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 同じ様に、初めて今年1年間勉強させていただいて、ここに住んでいながら、なんと区内を知らないのかという事を改めて実感しました。江東区がどんなふうにあるのか、漠然としたものはもっていましたが。実際、特に、湾岸地域の方に、どんどん新しい人達が増えてきて2極化するというような、新しい勉強をさせていただいたなという気がしております。今現在別の区で仕事しているものですから、こちらの区では寝ているだけの状態ですので、来年3月でちょうど満期になった後は、もう少し区内の事について勉強しなくてはいけないなと思っております。

また、私が一番江東区に感謝しているのは、特に防災の観点から色んな協定を、どんどん他の区に先駆けてやっていることです。ここに住んでいますので、来年からもまた機会があったら、別の角度で一生懸命勉強したいなと思っております。本当に勉強になりました。ありがとうございました。

○委員長 はい、ありがとうございました。

○委員 私は、あくまでも区民目線で日常生活を丁寧に見つめた意見というレベルで言わせていただきました。そして、私自身この区にはとても思い入れが強く、終の棲家とし

て転居させていただいて、色々な考えを持っています。ここの区でマイクロ水力発電の着眼を持ってくださって、2年後にマイクロ水力発電で何か明かりがつく催しがあるそうなので、2年間しっかり小さな充実を積み重ねて、それを見てみたいと、区民としてしみじみとした1日を過ごせるのではないかと希望を持っています。そして、大塚先生の分析力と、桑田先生の抽出力、安念先生の豪快な笑いが、一生私の鼓膜から離れないと思います。本当に皆さんありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

○委員 私も、会議とかとても好きなので、とても良い機会で嬉しく思っています。自分自身をこれから活かしていく方法を考えてみると、最初ボランティアからスタートかなと思っています。社協の方から、このようなボランティアがあります、と提案されるのではなく、こんな場所でこんなボランティアをやりたいと自分で提案が出来たらすごく面白いので、そういう企画があつたら良いと思います。こんなボランティアをしていきたいというのが実現できれば、もっとボランティアを進めていけるのかなと考えています。

また、ボランティアのバッチについても関心があります。30分位なら一時保育を予約しなくても、バッチを付けている人に見てもらえたり、バッチを付けている人には子育ての相談もできたりする様なシステムがあつたら良いなと思います。

そして、外国人が増えている中で、日本に来て心細い外国人への対応策として、片言の英語程度であれば話せるという様なボランティアバッチをつける制度があつたり、日本人が外国人が和気あいあいと一緒に勉強出来るイベントがあつたら良いなと思います。

あと、この前テレビで見ましたが、発達障害の子供が増え、スーパーバイザーという資格がとても役立っている地域があるということでしたので、江東区でもぜひ取り入れてやっていただきたいなと思っております。

そして、認可外保育園に預ける事に不安を抱く保護者もいると思うので、食事やお昼寝の様子等、保育園の様子を積極的に見ていく必要があると思います。預けるからには、よく状況を把握しなければいけないと思います。

委員会の中で商店街の話が出ましたが、八百屋さんが商店街に多いという事なので、果物祭りの様なイベントで商店街を盛り上げられたら、面白いのかなと考えていました。

最後に、特別養護老人ホームの施設が十分に活かされているのかという事と、出てからの不安がないのか、施設を出てからどのような状況になっているのかというような不安を抱えてる人が多いのではないかと、気になっています。また、グランチャ東雲が非常

に人気ですが、受講料が高くて良いので、もっと幅を広げて欲しいと考えております。

以上、色々勝手な事を言いましたが、よろしく願いいたします。

○委員長 はい。では次の方お願いします。

○委員 4年間お世話になりました。ありがとうございます。評価をさせていただくのは初めてで、このようなところに参加させていただいて、非常に勉強させていただきました。行政の持つマクロ視点というか、公共性ですね、税金を使う公共性の視点と、なかなか過去の事が変えられない堅さみたいなものと、それから民間の視点と、先程のきつずクラブのおやつの話も、行政から見ると恐らく小さい事になってしまうと思いますが、その感覚の中で、どこをどのように調和して折衷案というか、より良いものにしていくのかというところが、非常に難しいんだろうなという気がしました。ただ、こういう評価という機会を設けて、より良いものという視点を持っていただいているのは、非常に嬉しい事だと思います。私は江東区民ではありませんが、行政がやる事と、民間に任せていく事は、ある程度柔軟性を持って、そろそろ動き始めても良いのかなと思います。行政の仕事は、民間に任せたところのチェック機能だと思います。先ほどの無認可の保育所とか幼稚園ではないですが、行政がしっかりとチェック機能を持っていて、それも1か所だけではなくて、ダブルチェックをするかたちでのチェック機能をしっかりしていれば、あとは多くを民間に任せられるのかと思います。先ほどボランティアの事をおっしゃっていましたが、本来のボランティアのかたちに戻していくと、もっともっと参加したい方もいらっしゃるわけだし、行政の中では絶対に出てこない発想もたくさんあると思います。そういうところも吸い上げられるようにしていかなければいけないと思います。

大学で、20年近く教員生活をしていますが、自分が歳を取ってきているだけではなく、恐らく、子供達も変わってきているのだと思います。子供達自身がゆとりだからと言ってしまふ時代ではありますが、社会全体が変わってきているから、1番柔軟な子供達のところに変化がいくのではないかと私は思っていて、昔が良いのではなくて、より良い社会になっていくという、その、より良いものとは何なのかということ、考えられる場所が必要なのかもしれないと思っています。

ですので、どこかでお話をした、安全、安心の基準は何だろうかとか、求めているものの価値観の様なものの整合性が無い中で、現状把握がなかなかできにくい。特に私は福祉をやっている人間なので、一人一人の価値観によって、色々な思いや数字が変わってきてしまうと感じています。アンケートを取っても多分そうだと思います。ですので、その辺

をどう柔軟に、客観的に、見られるのかというところが、行政の柔らかな視点というか考え方なのかもしれないと思います。

一点、福祉に関しては、全体的に現状把握が甘いと思います。見えないところにたくさん問題があるわけで、見えないところを見ていくとアウトリーチと簡単に言っていますが、アウトリーチは見えてからもできる場所があつて、もっと現場の中にたくさん入り込んで行くような工夫が必要なのではないかなと思います。

私としては、自分も外にいたなという感覚がありまして、現場の中に入って、これから地道にやりたいなという気持ちを強くした4年間でした。本当にありがとうございました。また、丁寧にまとめて頂いた先生方、本当にご苦労様でした。好き勝手な意見を、これだけきれいにきちんと明確にまとめるのは大変だと思います。ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

○委員 どうも4年間お世話になりました。印象的だったのは、毎回評価前に30分の打ち合わせをするのですが、その時に吉田委員が、区でこうした問題があるということで、写真をたくさん持ってきてくださり、非常にわかりやすく問題を指摘したり、いいところを褒めたりしていた事です。その観点で見ると、この外部評価結果報告書にもう少しわかりやすい絵等も含めても良いのかなと思いました。説明を聞いて、非常にわかりやすかったのでその事を思いました。どうもありがとうございました。

○委員 私も4年間関わらせていただきました。どうもありがとうございました。まず、4年前、江東区にまだ外部評価のシステムがないという事で、当時の政策経営部企画課の関係の皆様が、是非、区政をオープンにして区民の方と対話をしながら施策をブラッシュアップしていきたいというところから始められたという事で、ここまで、ここまでというのが何処まで分かりませんが、4年間の蓄積があつたという事で、区の関係者の皆様、それから委員長始め委員の皆さんのご尽力という部分に、改めて敬意を表したいと思います。この後、一区切りということですが、この後これをどのように高めていくかという点に、大いに期待してるところではありますが、これを続けていくという前提で、私自身思ったところを2点申し上げたいと思います。

1点目は、私自身関わっていた一委員として、テクニカルな部分の反省なんですけど、ここ2年は、最初の2年の施策をセカンドラウンドという事で、2回目の評価をしましたが、私自身の反省として、本来的には一巡目と何がどう変わって、区が一巡目のものをどのよ

うに活かしてきたのかという部分を、もう少しきちんと対話できるような評価の場にしたかったなど。ただ、それは姿勢として区の職員の方から伝わってきた部分もあるし、それを十分に理解しきれなかった部分もあるので、評価の工夫で出来るのか、少しやり方を変えた方が良いのかは、今ここでは具体的には申し上げられませんが、これから後期という意味でいうと、三順目四順目になっていくので、その辺はテクニカルな部分として、今後改善の余地があるのかなというのがまず1点です。

それからもう1点、これは要望的な事になりますが、先ほどの大塚委員の話と少し印象が変わってくる部分もありますが、今年一通りやらせていただいて、施策を担当される部署によって、若干の温度差を感じたというのが正直ございます。それは、先ほど申した点と絡むのですが、これまでの2年前の評価のような部分をきちんとフィードバックさせて、情報提供であるとか、この評価の場でどう説明したら良いのかを、真摯に考えてらっしゃるなというのが明らかにわかる部署と、必ずしもそれが感じられなかった部署というのがあり、若干の温度差が感じられたので、それは良い悪いかという事ではなくて、むしろ、この評価の場を区の職員の皆さんとしてどのように感じていらっしゃるのか、これは使える場なのか、いや、もっとこうして欲しいというものなのか、その辺りは、もし今後この場を続けていかれるのであれば、少し間が空くという事であれば、是非庁内の中で綿密に聞き取っていただいて、逆に評価をする我々の側にそれをぶつけて頂くようなやり取りがあると、より豊かな評価になっていくのかなと思いました。

ただ、いずれにしても、4年前から今年のところまで少し振り返ってみただけでも、大変有意義な場になっているのではないかと感じられるので、まずこういう場を、区政としてさらに活かしていただくように、この4年間関わってきた者として、是非お願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

○委員長　ありがとうございました。私からも一言御礼申し上げます。この4年間委員長として、この議事を取りまとめるという仕事をさせて頂きました。その間木村副委員長始め、委員の皆様方、それから事務局の各位も多大なご尽力をいただきまして、本当にありがとうございました。私としては、物事は何でも、もう少しやった方がいいという余韻のあるところで止めた方が良いのではないかという気がいたします。二順して4年間やったところで、もう少しかもしれないが、これで止めた方が良いと思います。先程大塚委員がおっしゃった職員の表現能力、説明能力が高まったというのは、私も一つの成果だとは思いますが、資料作りが上手くなり始めるとそろそろ止めた方が良いというか、そのや

り方を変えた方が良いと私は思います。

ですから、来年は少なくとも、このかたちではやらないというのは大変結構なことで、外部評価である必要はないし、別に委員会方式である必要もない。ただいずれにせよ、高度成長でどんどんどんどん成長しているときには、評価は理屈の上では必要かもしれないけれど、実際にやらなくてもいいわけですよ。だんだん縮んでいく社会だからこそ、いよいよ困った時のために予行演習をしておくという事にこの評価の大きな意味があるわけで、そうだとすると、今申しましたように、何もかたちにこだわる必要は無いので、色々なやり方がきっとあるわけでしょうから、やがて来たるべき冬の時代に備えて、予行演習をしておく。そこに意味があり、それは4年間やって、だんだんと、そう甘いものではなくなるなという意識が、区職員の皆様はもとより、一部とはいえ区民の皆さんの間にも少しずつ育っているのではないかと思いますので、その点で今やって良かったなど、また、この辺で止めた方が良いのではないかという両面を感じた次第でございます。いずれにいたしましても、私は別に格別の事は致しませんでした。皆さまのおかげで、このように成果を出すことができました。本当にありがとうございました。

それでは事務局から、まずは部長から、お願いします。

○事務局 本日はどうもありがとうございました。来年度以降の外部評価について、一言お伝えさせていただきます。現在の長期計画が来年度で前期の5年間が一応終了という事になりまして、後期が27年度から始まります。後期計画につきましても、基本的には、前期計画を踏襲するわけですが、先ほどから出ておりますように、この4年間におけるその社会状況の変化でございますとか、この委員会の議論等を含めまして、やはりある一定程度の見直しは必要になってくると思います。

したがって、来年1年間それを行うという事で、この中で長期計画の進行管理等を担っております、この行政評価制度につきましても、この4年間の総括を行いつつ見直しが必要かどうかという検討も来年度進めてまいりたいと考えてございますので、来年度はお休みという事で、前期期間における外部評価は、今年度でひとまず終了とさせていただきます。27年度からの後期計画に合わせて、また改めて方法等について検討をしてまいりたいと考えてございますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それから、最後にお礼の言葉という事で、本当に長時間にわたりまして、委員の皆様にはご出席をいただきましてありがとうございました。今回ご指摘いただいた点で、大変申し訳なかった事は、時間管理の点です。4年間やって、先程のお話にありましたように、

議事者の方も慣れが出てきたと思います。ただ、私もこの事務局側の席に座ると、そんなに防御する必要もないのになど、もう少し言い方があるかと思いますが、いざ自分が委員さん達の前に立つと、なかなかそうもいかないと、難しいところがあるなどというのは、自分がそういう立場になると感じる場所ですね。そういう事も一つご理解いただきたいと思います。いずれにいたしましても、議事者の側も多少は、進化したのではないかと考えております。委員長、それから各班の班長の皆さま、ご多忙のところ、取りまとめにご尽力いただきましてありがとうございました。皆様からいただいたご意見を踏まえまして、区政運営を行ってまいりますので、よろしく願いいたします。今後とも、区政へのご理解とご協力を、お願い申し上げまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。それでは企画課長より事務連絡をお願いいたします。

○事務局 それでは、最後に事務連絡でございます。謝礼金の請求書は、押印の上、そのまま机の上に置いておいていただければと存じます。

○委員長 それでは、以上をもちまして、第6回江東区外部評価委員会を終了いたします。委員の皆様には、当委員会の運営にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

— 了 —